

保健体育部会

<県研究主題>

心と体を一体としてとらえ、生徒一人ひとりが生涯にわたって自らの健康・体力づくりを考えて行動する資質や能力を培う学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 杉山 健 (川崎地区)

<研究主題>

積極的に運動の特性に触れ、運動に親しむ資質や能力を育てると共に、コミュニケーションを活用し仲間と高めあうことができる体育学習 ～柔道の授業を通して～

1 提案内容

川崎市多摩・麻生地区の研究テーマとして、体育分野では、「積極的に運動の特性に触れ、運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、コミュニケーションを活用し仲間と高めあうことができる体育学習」として、2カ年計画の2年目になる。柔道の授業を通して、この研究テーマにせまるための手立てと工夫を考え、研究を進めてきた。

(1) 研究の内容

①研究対象

第1学年178名を対象に事前事後のアンケート及び第1学年5組を対象に研究授業

②地区研究テーマにせまるための手立てと工夫

ア. 学習指導計画の工夫

イ. 積極的に運動の特性に触れさせる工夫

ウ. 他者とのコミュニケーションを大切にする工夫

エ. 学習資料の工夫

(2) 研究の結果

授業を進めていく中で、積極性に欠ける生徒の気持ちの変容が見られた。事前のアンケートと事後のアンケートを比べてみても良い変容がみられたのが分かる。

(3) 今後の課題

○環境面の問題から学習の継続性がないため、学習内容の精選が必要。

○生徒の習熟度の高まるような学習計画の見直し。

○3年次に技能が身についているか不安がある。

○安全面については、体育館での授業になるので畳と畳の間の隙間などの不安がある。

2 協議内容 (質疑応答)

問 授業の形態について (T・Tについて)

答 5クラスのため、2・2・1での授業展開としている。今回の1年5組は1クラス展開のためT・Tが成立した。

問 安全面の考慮と活動時間の確保について

答 短い時間の中で、筋力も高められ、子どもたちが楽しめる練習の実施、技の習得以外でも柔道の楽しさを感じられるような授業展開、指導内容の精選と、テンポのよい授業を展開していった。

問 評価計画について（思考・判断①について）

答 継続的に評価を行っている。

問 年間計画について 2年次において柔道を行わないことで、3年次での柔道の授業に不安はないか？

答 施設面の問題でこのような形になっている。ダンスとの兼ね合いもあり、1年次のみでの柔道となっている。

3 まとめ（指導助言）

- ・段階的な指導を行うことが良い
- ・他者とのコミュニケーションについて、アドバイスの記入がカードに設けられていることが良かった。
- ・子どもの実態をしっかりと把握し、学習指導要領を確認し、生徒に身に付けさせたい力を明確にし、指導と評価の計画を立てることがとても大切である。
- ・授業においてもPDCAサイクルを行うことが大切である。

提案2

提案者 高橋 敦史（足柄上地区）

<研究主題>

生徒一人ひとりが自らの健康を考え、習得した知識を活用する学習指導と評価の工夫
～習得した知識を実生活で活用することを目指して～

1 提案内容

「第1学年 保健分野 心身の発達と心の健康（欲求やストレスへの対処と心の健康）」生徒が興味・関心をもってストレスに関する知識を習得し、その知識を活用しながら、生徒とのかかわりや言語を通じた表現活動の中で、自分の考えを深めることを目指して研究を行った。

(1) 研究の内容

- ① アンケートを生かした授業展開（知識の習得、興味・関心の高揚）
- ② ICTの活用（知識の習得、興味・関心の高揚）
- ③ 教具の工夫（知識の習得、興味・関心の高揚）
- ④ グループディスカッション（知識の活用・探究、思考・判断向上）
- ⑤ ワークシートの活用（学習目的の明確化・知識の習得）
- ⑥ 授業の終末に評価（知識の習得確認、自己評価）

(2) 研究の結果

- ① 事後アンケートの結果より、事前に比べ、知識の深まりや、自分の力で問題解決の方法を見いだしている意見が多くみられた。
- ② 知識を活用した学習活動について、生徒の関心を高めたり、知識の定着がはかれた。

(3) 今後の課題

更に研究を進め、保健学習のあり方について研究していきたい。

2 協議内容（質疑応答）

問 p 3 でストレスの主な原因である「友達」とグループディスカッションを行い、友達との関係に変化が見られたか、メンバーの構成について何か工夫をしたか。

答 生徒同士の関係は元々良いので、話し合う中でお互いの考え方が伝わった。グループについては座席順で、意図的には変えなかった。意見交換が少なかったので今後工夫していきたい。

問 ストレスへの適切な対処に、コミュニケーションの方法をあげているが知識として取り上げて行ったのか。3年生で扱う「生活習慣病」へどのように生かすのか。

答 小学校でグループでの話し合い活動がかなり行われていたので、知識の指導は特に行わなかった。聞かれたことについては答えた。まだ具体的に考えていないが、ストレス耐性が大切になってくるので付け加えたい。

問 2時間目と3時間目で、グループディスカッションのやり方を変えた意図は。

答 2時間目はグループ内だけの意見交換で、3時間目はグループ内で話し合った内容を他のグループで話し意見交換し、自分の考えを伝えられればと思った。

問 p 10アンケートの結果で、具体的な記述の一番下の発言をした生徒の授業での様子や否定的な言い方に対して周りの反応は。

答 マイナス的な言動については、周囲も分かっているので特に反応はない。

問 今回の研究と実践を経て、今後に向けて考えられていることは。

答 パワーポイントや教具を上手に利用したい。

意見

保健で学習した学習内容を実生活に照らし合わせてみたり、実生活で生かすことができるような授業内容の工夫をしていくことが大切なのではないか。

3 まとめ（指導助言）

- ・授業規律がしっかりしている。そして、教具の活用やICTの利用、学習形態の工夫など授業の準備が綿密に行われている。
- ・保健学習においては、ヘルスプロモーションの考え方に基いて行われること。
- ・内容の取り扱いについては、3年間で48時間をしっかりと行ってほしい。
- ・学習内容については、学習指導要領をよく読んで、教科書を使って教える。
- ・教育は人格の完成をめざしている。だからこそ毎時間、意図的・計画的にそして生徒の思考過程を利用し、授業と生活が密接に関わり合うような授業を行ってほしい。
- ・『学び続ける教師はぶれない』

班別協議会の記録

【協議の柱】

- ① 学習指導要領に沿った年間指導計画の工夫について
- ② 学習意欲を高める評価計画の工夫について

○各班からの報告

- ・武道とダンスの必修化についての話が出ていた。また、選択については、男女別学習でやっているのは難しいと感じた。

- ・2週間という区切りで体育を組み、2時間続きの授業といった工夫をし、余裕を持って授業を展開している学校もあった。
- ・横須賀では全校に施設・用具をそろえるようにとの通知があった。
- ・バレーボールの授業を例に話を進めた。思考力は課題を選ぶこと、知識は名称等を言えることといった話が出た。観察とカードの記入状況をどのようなバランスで評価していくべきだろうか。課題解決学習をしていく中で、教師が何を見るのかを決めていくことで効率のよい評価ができるのかかと思いました。
- ・教育困難校が多く、別習をやらざるをえない状況がある。指導要領は理解しているもの、なかなか実践できていない。
- ・体育科1名といった学校もあった。事前にアンケートを取って3年生の計画を立てている。選択については、1名では難しい。
- ・評価について子どもたちに話をしっかりと行う。授業の見通しを持たせること、教師が何を指導し、何を評価しているのかをはっきりさせることが、指導と評価の一体化になるのではないだろうか。
- ・文章能力のない生徒をどのように見とっていけばよいか。

4 まとめ

(1) 班別協議より

学校に教師1名の場合、3年生の選択については、可能な範囲で行う。学校の現状にじて、選択の幅を考える。2年生の後半にアンケートを取って、その対応を工夫していく。

文章表現で見る思考判断については、教えたことが表現されていること。また、なかなか文書が書けない生徒については、例えば聞き取りをして確認することも有効である。

(2) 小学校及び中学校各教科等担当指導主事等連絡協議会報告

① 体育分野の学習指導の充実に向けて ～確かな学習・豊かな学習～

3年生の目標にいかにか近づけるか。技能では、何を教え、どのように評価していくのか。思考・判断では、知識として教え活用する場面をつくっているか。単元計画の作成では、この時間に何を教え、いつ評価するのか。評価については、教えたことを評価しているのか。また、学習評価をその後の学習指導や評価方法の改善に生かしているか。

② 運動部活動の適切な指導と運営

体罰の根絶を目指して、学習指導要領の趣旨を踏まえた運動部の活動（部活動の意義と留意点など）

③ 保健分野の充実に向けて

新たな健康課題（メンタルヘルス、性に関する課題、防災、環境課題、新たな感染症、がんなど）について保健で指導する内容は何か。指導と評価の一体化（3観点のバランス）。性に関する情報への対処（受精・妊娠、エイズ及び性感染症）についてしっかりと教えているか。